

| 定時制午前部・午後部教育目標 | | 重点目標（中長期的目標） | | 総合評価 | | |
|---|---------------|--|--|--|--|--|
| 三部からなる定時制の特色と単位制の趣旨とを活かして、様々な「学び直し」を願い、未来を拓こうとする生徒・保護者の思いに応える教育を行う。 | | 単位制の一層の推進・充実を図るとともに、生徒が各部の特徴を活かしながら、基礎学力と基本的生活習慣とを身につけ、よりよい学校生活を送ることができるようにする。 | | 三部からなる単位制への移行に全力を傾けているが、生徒のニーズを細部に至るまで分析し、個々に即した教育の充実を最優先課題とした場合、旧来の昼間定時制時代のシステムからの転換や意識改革等、緊急に改善を要する問題がある。 | | |
| | | 今年度の重点目標 | | 成果と課題 | 評価 | 改善策・向上策 |
| | | 1. 生徒一人ひとりの個性の尊重と自主性の育成 2. 集団生活の中でルールを守る態度の育成 3. 基礎学力の定着と進路指導の充実 | | 新体制に移行できつつあるが、個々の生徒に目を向けた教育活動の充実という面では、今後さらに解決すべき課題が多くある。 | B | 全日制閉課程に伴う完全移行に当たり、中・長期的ビジョンはもとより、施設の使用に至るまで、職員全体で議論を重ねながら、コンセンサスを得るような時間と場を確保することが急務である。 |
| 領域 | 対象 | 評価項目 | 評価の観点 | 成果と課題 | 評価 | 改善策・向上策 |
| 教 育 | 教育課程 | 開講科目の充実 | 生徒・保護者の希望がかなえられるような講座の設定、および編成ができたか。 | 可能な限り希望に添った編成に努めた。社会人向けの講座も引き続き開設できた。 | B | 様々な制約の中で困難を伴うが、個に応じた編成に努めたい。新年度も公開講座を計画している。 |
| | 学習指導 | 基礎・基本の定着 | 可能な限りの教科・講座で習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着に向けた指導ができたか。生徒による授業評価を行い、活用できたか。 | 国・数・英の3教科で計42講座の習熟度別授業が展開できた。個に応じた指導には時間的な制約があった。 | B | 個に即した指導の効果を高めるために、保護者との面談等を充実させる必要がある。 |
| | | 個に即した指導 | 必要とする学力を個に即して着ける指導ができたか。 | | | |
| | 生徒指導 | ルール・マナーに対する意識の向上 | 基本的生活習慣の確立と関連付けた具体的指導ができたか。生徒会と連携できたか。 | 整理整頓指導により、共用教室やロッカー使用に関するマナーが向上した。生徒会と連携した大庭駅清掃で、公共施設へのマナー意識が向上した。 | B | 具体策をもってコンスタントに意識の向上を図りたい。引き続き生徒会と連携していく。 |
| | | 不登校生徒などへの対応（相談・カウンセリング） | 情報を共有して支援できたか。保護者との連携は強化できたか。外部専門家などと連携できたか。 | 特別支援が必要な生徒に対して、職員間の協力体制を強めるための情報交換ができた。外部専門家と連携し、きめ細かな対応ができた。 | A | 今年度実施した生徒によるライブトークなど、アプローチの工夫をしていく。 |
| | | 暴力やいじめの防止 | 年次会・職員相互で連携できたか。具体策を持って取り組めたか。人権感覚が向上したか。 | 人権学習では、講師の体験談を根拠に、生徒が人権感覚を高めることができた。具体的指導において、職員相互で連携し、迅速な対応ができた。 | B | 人権学習は、生徒の実情にあった具体策を企画していく必要がある。随時適時、事前指導を心掛ける必要がある。 |
| | | 喫煙防止 | 校内外の巡視および啓蒙活動はできたか。 | 地道な校外巡視で、校外での喫煙が激減した。 | B | 今後も地道な声かけや指導が欠かせない。 |
| | 交通安全指導 | 交通安全指導 | 原付通学許可者への講習ができたか。LHRなどを活用した指導ができたか。 | 危険予知についての実践的な講習ができた。配布プリントを活用した自転車指導ができた。 | B | 自転車の交通安全指導を充実させる必要がある。 |
| | | 望ましい職業観・勤労観の育成と進路意識の高揚 | 卒業までを見通した進路ガイダンスを充実させることができたか。面談、履修指導、適性検査を通して職業選択できる指導ができたか。 | 全体にむけての進路講話は成果があった。講師の選択や生徒の動機付けに課題が残る。 | B | 年次毎のガイダンスの開催は今後の課題である。 |
| | 活 動 | 進路指導 | 進学指導の充実 | 定時制ハンドブック(進路編)を使い、LHRや年次別ガイダンスで指導できたか。進路指導室の各種情報誌・情報端末利用、説明会などで生徒ひとりひとりに行き届いた指導ができたか。 | 年次別・HR別にハンドブックを利用する機会を増やしたい。 | B |
| 就職指導の充実 | | | 総合学習やホームルームの進路学習の時間を有効に使用し、各自の進路に対する意識を高めることができたか。就職希望者に対してマナー教育を含めた個別指導を徹底できたか。 | 適性検査・常識テストを実施して生徒の実態を把握した。会社訪問者・企業見学者の数を増やしたい。 | B | 諸検査は新入生から実施したい。 |
| くれき野祭の充実 | | | それぞれの役割分担の中で、多くの生徒が主体的に取り組めたか。 | 閉課程になる全日制が分担していた仕事(後夜祭・アーチ作り・バザーなど)を午前・午後部で行った。スタッフの生徒を中心にそれぞれの係でやり遂げることができた。新年度は、定時制(午前部・午後部、夜間部)、通信制で行う初めての文化祭となるので日程・内容について検討する必要がある。 | B | 来年度から定時制(午前部・午後部、夜間部)、通信制による文化祭になるので、生徒の声を聞きながら連携して、日程・内容を検討していきたい。 |
| 部活動 | 委員会活動の充実 | 各行事や活動計画に向けて、積極的に取り組めたか。 | 保健だよりの発行、くれき野の発行、ゴミ箱清掃、壮行会での新しい応援、大庭駅掃除、焼き芋会、落ち葉拾いなどそれぞれの委員会で工夫し、活動することができた。さらに、委員会活動について、生徒と相談し、積極的に活動していきたい。 | B | 役員会を定期的に行い、さらに各委員会で活動する内容を検討していきたい。 | |
| | 部活動の位置づけ | 生徒の部活動への思いが変容する中で、発足についての規約の改正や活動の仕方等について、生徒・教職員で話し合うことができたか。 | 新しい部の発足について、生徒と話し合うことができ、生徒総会で規約改正が行われた。同好会を発足してほしいという声に職員態勢や施設の問題もあり、どのように応えていくかが課題である。 | B | 年2回計画されている生徒・保護者・教職員の会など機会がある毎に部活動への要望を生徒に聞き、検討すべき事柄は、生徒会や職員会で検討していきたい。 | |
| 特別支援教育(年度途中開始) | コーディネーター養成研修 | 年5回の養成研修講座に参加し、全職員へ報告できたか。 | コーディネーター連絡会で研修内容をまとめ、本校の特別支援のあり方と合わせてハンドブックを完成することができた。個別の支援計画作成にあたって、特別支援学校との連携をより密にとっていく必要がある。 | A | 中学校からの支援計画の引継ぎや情報交換会から、支援を要する生徒を早期にピックアップする必要がある。校内委員会を中心に具体的な支援計画をたて、職員の共通理解の基に教科学習等の場面で実施していきたい。 | |
| | 特別支援学校との連携 | 支援を必要とする生徒の実態把握、保護者との共通理解、進路相談等に活用できたか。 | | | | |
| | 特別支援のハンドブック作成 | 特別支援教育における共通理解のための本校独自のハンドブックを作成できたか。 | | | | |
| 学 校 運 営 | 地域との連携 | 公開授業・学校説明会の充実と社会人聴講生の受け入れ | 公開授業をさらに推進するとともに、充実した学校説明会を行ったか。地域や社会に開かれた学校作りを進めるとともに、社会人の学習機会拡大を企図した講座を設定し、生涯学習の場を提供できたか。 | 保護者懇談会期間に授業参観を計画するなど、現状に即した公開が実施できた。11月の学校説明会は在校生の挨拶が好評であった。社会人向けの公開講座やもの作り講座(松本市共催)も開講でき、好評であった。 | B | 引き続き授業公開の機会を多く設け、指導の工夫にも役立てたい。社会人向け講座はほぼ定着したが、今後とも新しい試みを進めたい。 |
| | 組織の運営 | 単位制の一層の充実 | 「内規集」および「定時制ハンドブック」を全面的に見直すとともに、有効な活用ができたか。 | 履修選択に伴い、年次会単位での活用に努めた。 | B | より活用しやすいものとするべく内容の吟味に努めたい。 |
| | | 組織の充実 | 学習指導と進路指導をより充実させるための組織づくりができたか。 | 生徒増に伴って職員数も増えたが、従来までの組織では現実にはそぐわない点が見れ始めている。 | B | これまで全日制で担ってきた仕事の整理統合を含め、学校全体としての組織の再編が課題である。 |
| | 校務分掌の検討 | 仕事の分担は適正だったか。意見を総括する中で、協力体制を確立できたか。 | | | | |
| 研修 | カウンセリング研修 | 不登校生徒などへの共通理解を持つことができたか。上記生徒へ適切に対応するための研修ができたか。 | 生徒の情報を交換し、指導上の留意点を共有するための研修の機会を設けるよう努めたが、職員全員が参加できる時間設定が難しかった。 | B | 全日制閉課程や日課変更に伴い、会議等の時間も変わるが、情報交換の機会を定期的に十分な時間を設定すべきである。 | |

| | | | | | |
|--|--------|--|-------------------------------------|---|---|
| | 授業法の研修 | 学習指導に関する研修の必要性を共有し、機会を設定したか。 校内授業公開を実施し、学習指導の研究に活用できたか。 | 初任者研修に伴い、相互の授業参観の機会を増やすよう計画し、実施できた。 | A | 生徒への共通理解に立って、教科の枠を越えた指導法の工夫を図るため、授業公開を進める必要がある。 |
|--|--------|--|-------------------------------------|---|---|